

E C O - T O P プログラムの今後の方向性に関する検討

項目	改定理由	論点
カリキュラム要件の緩和	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な分野の大学の参画を促すことができる。 ・ 専門が多様化した大学間の交流により、学生は多くの気づきを得ることができる。 ・ 様々な分野を専攻する学生が、それぞれの分野と自然環境分野とのつながりを意識する人材を育成できる。 (学生における生物多様性の主流化) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境分野を専門としない大学も増える可能性があることについて ・ 「自然環境分野を軸としたジェネラリスト」という目指す人材像との関連について ・ 「人材育成の理念」の総合的な判断について
インターンシップの負担軽減 (3分野・4単位⇒2単位)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 留学やボランティア等他の自主的な活動に意欲がある学生の履修を促すことができる。 ・ 同じ公園管理でも、行政が直接管理するケースと指定管理者としてNPOや企業が管理するケース等が混在しているほか、ソーシャルビジネスも拡大することが見込まれる中、企業、NPO、行政の3分野に固執する必要が低下しつつある。 ・ 企業でも建設系の環境コンサルタントと緑地管理会社では自然への関わりの視点は異なるほか、行政でも、広域行政と基礎的自治体又は、企画部署と現場を管理する部署でも視点が異なり、企業・NPO・行政の3分野の経験ですべてを理解できるものでもない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3分野のインターンシップがE C O - T O P履修生の共通経験でなくなることについて ・ インターンシップの経験が量的に減少することについて